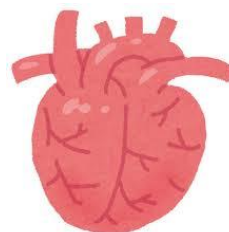


血圧が高くなっても頭痛などの自覚症状はほとんどないことが多く、気付かないうちに合併症をおこしてしまう可能性があります。血圧が高い状態が続くと心臓や血管に負担がかかり、その結果、心臓肥大や動脈硬化による合併症を引き起こします。

高血圧性心肥大

高血圧が続くと、全身に血液を送り出す心臓は大きな力が必要になります。心臓の筋肉は発達して厚くなり、心臓全体が大きくなる「心臓肥大」になります。心臓肥大になると、心不全、不整脈、狭心症、心筋梗塞などをおこす危険が増えます。



うっ血性心不全

高血圧が続くと、心臓の筋肉の働きが低下して血液の循環がうまくいけなくなり、心臓は十分に収縮できなくなります。心臓に大きな負担がかかり、足や顔がむくんだり、息切れ、動悸などの症状がでます。



脳出血・脳梗塞などの脳血管障害

高血圧が続くと、脳の血管に負担がかかり、脳の動脈は傷んで血管が破れたりつまったりします。脳出血は突然起きることもあり注意が必要です。脳梗塞は脳の動脈硬化が進んで、血管がつまって起こる病気です。糖尿病や脂質異常症が合併すると、脳梗塞を発症する危険度が高くなります。



心筋梗塞・狭心症

高血圧が続くと、心臓に血液を送っている冠動脈が動脈硬化で狭くなったり、血栓が詰まったりして血液が通らなくなります。心臓の筋肉に酸素や栄養を送っている血管が完全に詰まってしまうのが心筋梗塞、血管が狭くなり心臓に十分な血液を送りこめなくなるのが狭心症です。



合併症を予防するためには、動脈硬化と心臓の状態を把握しながら治療をすすめることが必要です。当院では、合併症診断のための検査を行っています。検査をご希望の方は、ご相談ください。

- * 心臓超音波検査（心臓の壁の厚さや動きなどを調べ、心臓肥大や心不全を診断します）
- * 頸動脈超音波検査（動脈硬化の程度を調べ、脳梗塞の危険性を診断します）
- * 血圧脈波検査（両手両足の血圧を測定し血管の硬さを調べます）